

二〇二五年度 入学試験問題

国 語

第三回

【注 意】

- ・ 試験時間は五〇分です。（八時五〇分～九時四〇分）
- ・ 問題は一ページから九ページまでです。
- ・ 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- ・ 字数制限のない問題について、一行分の解答らんに二行以上解答してはいけません。
- ・ 記号・句読点がある場合は字数に含みます。
- ・ 解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

① 次の文章は、戸谷洋志『悪いことはなぜ楽しいのか』の一節で、「復讐」
というあり方を論じた箇所です。これを読んで後の問いに答えなさい。

5

10

15

20

25

30

35

40

45

50

55

60

95

90

85

80

75

70

65

125

120

115

110

105

100

問一

——(2)「もしかしたらアレクセイよりもはるかに傷ついているのかもしれない。」とありますが、本文の内容から判断した場合、そのように言えるのはなぜですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア アレクセイに復讐心を認めさせるために、残酷な話を聞かせて彼を怒らせようとしたイワンは、苦痛と快楽という正反対の概念を同時に成り立たせなければならず、強い苦しみを抱え込むことになったから。

イ アレクセイの復讐心を駆り立てようとして、ありとあらゆる残酷な話を聞かせてアレクセイを怒らせようとしたイワンは、怒りの中で自分自身をすり減らし、さぞかし苦しんでいるだろうと考えられるから。

ウ アレクセイに自らの復讐心を認めさせようとしたイワンは、正当な理由がなく軽蔑されるときに人は怒りを感じるものだという人間の心理を説明することに成功したが、その過程でひどく苦しめられたから。

エ アレクセイの復讐心を駆り立てようとしたイワンは、復讐が実現した時の喜びを想像して快楽に浸っていたが、アレクセイの心の強さに苦悩し、アレクセイを怒らせることに終始していたと考えられるから。

問二

——(3)「しかし、アリストテレスは、この概念では復讐の限界を正しく示すことはできない、と考えました。」とありますが、アリストテレスは復讐についてどういうことを考えたのですか。三行以内で説明しなさい。

問三

——(4)「この問題を解決するものとしてアリストテレスによって挙げられるものが、貨幣です。」とありますが、これはどういうことですか。三行以内で説明しなさい。

問一

——(1)「ところが、同時に復讐には、どこか甘美な側面も含まれています。」とありますが、それはなぜですか。三行以内で説明しなさい。

問五

(5)

の次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア かねて正義に反することになります。
- イ 比例関係による正義が必要になります。
- ウ むしろ復讐を果たしたことになります。
- エ 新しい価値を創造することになります。

問六

——(6)「ただし、このような考え方で、すべての復讐心に対して適正な限界を設けられるかどうかは、わかりません。」とありますが、筆者がこのように言うのはなぜですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 子どもに対する残酷な仕打ちへの損害賠償という、お金に換算して解決しようとする発想自体が、物事を共通の尺度によって評価するといった適正な限界を冒瀆してしまふものだから。
- イ 人命をめぐる復讐は、子どもに対する残酷な仕打ちに始まり、しばしば手のつけられない形でエスカレートしていくが、キリスト教がこの事態を回避することができたから。
- ウ 残酷な仕打ちを受けた子どもの傷や人の命といった、かけがえないものを別のものでも交換したり、お金に換算して解決したりすることなど、簡単にはできないものではないから。
- エ 人の命を物品の交換と同じように扱うことは、失われたもののかげがえのなさを否定する発想であり、人命をめぐる復讐を回避する道を私たちで見つけ出す必要があるから。

問七

A D の中に入れる語として最もふさわしいものを次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし同じ記号は二度以上使えません。)

- ア しかし
- イ たとえ
- ウ だから
- エ なぜなら

問八

——ア～オのカタカナを漢字に直しなさい。

問九

本文の内容に合うものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 復讐は、他者に軽蔑されて感じる激しい怒りと、その相手に復讐したいと欲求することから生まれる快楽との間で、せめぎ合っているが、その時、万人に共通の価値尺度である「貨幣」が力を発揮するのである。
- イ 復讐は、苦痛と快楽の両方が含まれているため、禁じられた心の持ち方だが、すべての復讐心に適正な限界を設けて社会を維持するため、「損害賠償」という概念を用いて金銭で解決することも一つの方法である。
- ウ 復讐は、「目には目を、歯には歯を」という同害報復の論理に基づいて設定されたものと言えるが、比例関係に基づく正義によって果たされなければならないという理由でキリスト教はそれを禁じたのである。
- エ 復讐は、必ずしも当事者が果たさなければならぬというわけではなく、復讐したいと願う相手が別の何かによって報いを受けたと思うことがあれば、自分の復讐は果たされたと感じ、怒りは鎮まるものである。

2 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

20

15

10

5

55

50

45

40

35

30

25

85

80

75

70

65

60

120

115

110

105

100

95

90

問一

——(1)「客観的に考えれば、受けない理由はない。」とありますが、「ぼく」は「ハル」から映画化を頼まれたのに、なぜそれを断ったのですか。三行以内で説明しなさい。

問二

——(2)「わたしの映画、観たことないよね」とありますが、「ハル」がこのように言ったのはなぜですか。その理由として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の映画の上映時間は十五分くらいであるものの、映画はマンガ以上の最高のエンターテインメントであり、人々を魅了し続けると信じていたから。

イ 映画部には映画化に十分な機材がないと「ぼく」が思っているとわかり、改めて断られるのを覚悟した上で、それでも一度映画を観てもらおうと思ったから。

ウ 自分の映画の魅力を知ってもらうことで、「ハル」の映画と『春に君を想う』の作品とは内容的に相性がよいことを「ぼく」に確かめてほしかったから。

エ 一度でも自分の映画を観たことがあるならば、その作品の素晴らしさに魅了されているはずで、映画化の依頼はまず断られないだろうという自信があったから。

問三

——(3)「ぼくの部屋にも見られてまずいものはないけれど、問題は他にあった。」とありますが、それはなぜですか。その理由として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 女子を部屋に招くのは「杏奈」にマンガを貸す時くらいなので、誰もいない自宅にいきなり女子の「ハル」を入れるというのは、どうしても気を遣うことになるから。

イ 誰もいない自宅に女子の「ハル」を呼ぶということに以前から抵抗を感じていたため、いつでも人を呼べるように部屋を片付けてあるとはいっても、やはり緊張するから。

ウ 『春に君を想う』を読みたいという女子の「ハル」の熱意は、「今日の放課後、家に行くね」という発言から伝わってきたが、実際にはまだ部屋の準備ができていなかったから。

エ いつでも人を呼べる程度には片付けてある部屋にしていたとしても、女子の「ハル」に気を遣わなくてはならないとは思えず、そのことをずっと悩んでいるから。

問四

——(4)「その事実は憧れの漫画家が近くにいるみたいに、一人のファンとして胸が震えた。」とありますが、このときの「ぼく」の心情はどのようなものですか。三行以内で説明しなさい。文末は「…心情。」としなくてよい。

問五

——(5)「原稿に向かうハルは真剣で、眼球が小刻みに動いている。」とありますが、「ハル」は「ぼく」の新作マンガの原稿を読んだ後、どのような感想を持ちましたか。その説明として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 内容が平凡で面白くないため映画化する気には全くならず、絵柄や作風から判断しても以前読んだ『春に君を想う』と同一の作者だとはどうしても信じられなかった。

イ 平凡な作品で面白くなく、あえて映画化する意欲など湧いてこない一方で、『春に君を想う』には自分に足りない部分があり、とにかくこの作品を映画化したいと思った。

ウ 読む者は誰もがページをめくる手が止まらなくなるほどの本当の傑作である『春に君を想う』と比較すると、技術的な拙さは否めないと映画化を断らざるをえなかった。

エ 小学生が描いたなんて未だに信じられない『春に君を想う』は、たしかに本当の傑作なのだが、平凡で面白くない新作マンガには「ハル」の足りないところがあるとも思った。

問六

——(6)「ハルが力いっぱい拳を握りしめた。」とありますが、このときの「ハル」の心情を三行以内で説明しなさい。文末は「…心情。」としなくてよい。

問七

——A「息」とありますが、次のI～Vの「息」を使った慣用句のI～Vに入る最もふさわしい言葉をひらがなで答えなさい。()内はそれぞれの意味を表します。

- I 息が I (ひどく緊張する)
- II 息が II (一つのことをずっと続ける様子)
- III 息が III (それ以上続けられなくなる)
- IV 息を IV (生き返る)
- V 息を V (ほっとする、一休みする)

問八

(一)

——B「ドタバタ」とありますが、本文におけるこの語の表す状態や様子として最もふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 荒々しく躍動する様子
- イ 冷静さを失っている様子
- ウ 慌てふためいた滑稽な様子
- エ 騒がしい音に悩まされる様子

(二)

次のⅠ～Ⅲの表現の、Ⅰ Ⅲ に入る最もふさわしい言葉、《語群》の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし同じ記号は二度以上使えません。)

- Ⅰ 試合前の会見では両選手がⅠ Ⅲ 睨み合っていた。
- Ⅱ 大学を卒業しても、就職もせずⅡ している。
- Ⅲ 甘えん坊の妹は、一日中私にⅢ している。

《語群》

- ア ばらばら
- イ バキバキ
- ウ ブクブク
- エ バタバタ
- オ バチバチ
- カ ぼさぼさ
- キ ドロドロ
- ク グラグラ
- ケ ポコポコ
- コ ブカブカ
- サ べたべた
- シ ぶらぶら

問九

本文の内容に合うものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「ハル」はどうしても『春に君を想う』の映画化を実現させたいと思ひ、「ぼく」に粘り強く依頼し続けていたが、これが小学生のときに描かれたという事実を信じてことができず、議論は平行線のままだった。

- イ 「ぼく」は未だに『春に君を想う』を小学生時代に描いたことに違和感をもっており、映画化に向けた「ハル」との話し合いの中で、それが父親の家出と深く関係していると気づき始めたため、やはり断った。

- ウ 「ハル」は『春に君を想う』を高く評価するとともに、「ぼく」の新作マンガに期待するあまり、部屋を訪れた人は必ず目を奪われるであろう「ぼく」の名作マンガのコレクションへの関心をすぐ失ってしまった。

- エ 「ぼく」は自分の新作マンガを平凡で面白くないと「ハル」に批判され、自分自身でも理解している作品の欠点を的確に指摘されたと感じたために、「ハル」の鋭い観察力に感心し、尊敬の念を抱くようになった。

